

平成 23 年 5 月 18 日

各 部 局 長 殿

東日本大震災に関する災害対策本部長
総 長 濱田 純一
東日本大震災に係る電力危機対策チームリーダー
理事・副学長 松本 洋一郎

今後の電力需給対策に係る対応について（通知）

震災に伴う電力需給対策については、当面の暫定措置として平日日中の電力使用の一定の抑制をお願いしているところです。

この度、政府において「夏期の電力需給対策」が示されました。本学では、これまで、東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(Todai Sustainable Campus Project, TSCP)として先導的な試みを実践することでサステイナブルな社会の実現への道筋を示すことに取り組んでまいりました。また、今回の電力危機に関連して行った節電のシミュレーション結果を踏まえ、社会的役割を果たしつつ、電力供給難にあっても研究と教育の質を確実に維持して行くことを目指し、下記の通り今後の対応を進めたいと考えております。

各部局におかれましては、各々の状況に応じ、所要の取り組みについて積極的にご対応いただきますようお願いいたします。

なお、休日のシフトなど十分な準備を要する取り組みに関しては、早期に検討に着手いただくようお願いいたします。

記

1. 大学全体目標を、次の通りとする。

目標 1 : ピーク時電力の削減目標

7月（年間最大月）まで 対前年同月比の30%を削減

8月以降 対前年7月比の30%削減値以下に抑制

目標 2 : 使用電力量を対前年度比の25%を削減

2. 各部局においては、全体目標の達成に向け、電力危機対策チームによる電力抑制対策の情報を参考にしつつ、合理的な電力ピーク削減、節電の取り組みを進める。

その際、部局の要請に応じ、電力危機対策チームによる技術支援を行う。

3. 節電等の取り組みの実施に際しては、著しい執務環境の悪化を招かないなど安全の確保に十分配慮する。

担当連絡先： 本部環境課 渡邊 北澤

TEL（内線）22250 22251

E-mail energy @ ml.adm.u-tokyo.ac.jp

■基本方針

東京大学では、従来から有している知的資源を活かし、研究と教育の活性化を図りつつサステイナブルなキャンパスの実現に向けて、東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)として先導的な試みを実践してまいりました。

今般の電力危機に際しても、大学が社会に対し先導的役割を果たす必要性の高さから、積極的な電力削減目標を立て、研究と教育の質を確実に維持しつつ、同時に、温室効果ガス排出削減による低炭素キャンパスづくりに取り組んでまいります。

【電力削減目標】

目標1:ピーク時電力の削減目標

7月(年間最大月)まで 対前年同月比の30%を削減

8月以降

対前年7月比の30%削減値以下に抑制

目標2:使用電力量を対前年度比の25%削減

■東京大学の電力消費の特徴

1. 平日の使用

昼間時間帯(10時~18時)は、一定で高い使用状況が継続している。

夜間は、昼間の60%~55%程度の消費量になっている。

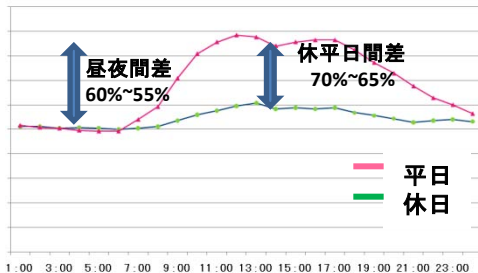
2. 休日の使用

休日の昼間の電力消費は、平日の70%~65%程度となっている。

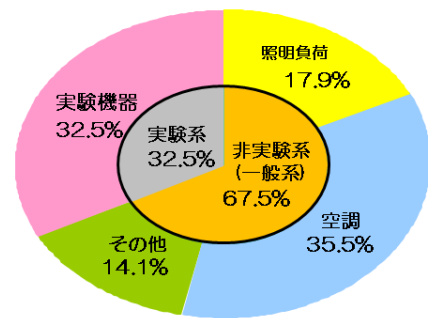
3. 用途別消費の内訳

空調35.5%, 照明17.9%, 実験系32.5%, その他14.1%で、

空調と照明で過半を占めている。



東京大学における時刻別電力使用状況



東京大学におけるエネルギー消費内訳

■ピーク時電力30%削減に向けた取り組み

今回の電力危機に関連して行った節電のシュミレーション結果を踏まえ、消費比率の高い、空調・照明の節電をはじめ、電算サーバーの集約化、各建物の電力使用量の見える化、休日のシフトなどの取り組みを促進する。(別紙)

節電方策事例

【STEP1】 ①～⑫を徹底することで、ピーク時電力削減目標は各月で達成可能。
併せて、年間電力量も全学で最大32%程度削減可能。

【STEP2】 STEP1を行うと共に、並行して⑬を実施することで、削減目標を安定的に達成可能。
併せて年間電力量も全学で最大40%程度削減可能。

【STEP3】 STEP1,STEP2を行ったうえで、さらに大規模停電の恐れなど大幅な電力削減が必要となった場合対応する。

STEP1

空調

- ①空調運用方法を変更する
・夏場の室温設定28℃の徹底と同時に冷却能力を落とす

照明

- ②照明器具の間引きを徹底する
・必要照度を確認しつつ、3台に1台程度間引く

コンセント その他

- ③非実験用冷蔵庫の使用停止をする
・又は、小型の冷蔵庫を効率の良い大型の冷蔵庫に集約し台数を減らす
④温水洗浄便座保温・洗浄水保温の解除
⑤湯沸かし室の電気温水器の停止
⑥複数台設置エレベーターの稼働台数の削減
・同時に、最寄りの階への使用を抑制する

パソコン 電算サーバー

- ⑦電算サーバーの集約化を図る
⑧デスクトップ型からノートパソコンに変更する
⑨パソコンの省電力設定を徹底する

可視化

- ⑩電力使用量をリアルタイムで見える化を図る
・個々の建物ごとにオンラインで表示し、使用者に電力抑制を促す

実験

- ⑪大電力を要する機器の使用時間帯を平日昼間のピーク時から外す
⑫大電力を要する機器の使用時期を夏場のピーク時期から外す

STEP2

運用

- ⑬部局の実情に応じ、休日をシフトする
・休日の振り替えや夏期休暇の運用を効果的に実施する

STEP3

空調

- ⑭空調の使用を一時停止する
・大規模停電の恐れなど大幅な電力削減が必要となった場合対応する